○ヒメミズニラの基準標本らしいもの（伊藤　洋）：Hirosi Ito：Reasonably supposed syntype specimens of *Isoetes echinospora* var. *asiatica* in Herb. MAK

ヒメミズニラ *Isoetes asiatica* Makino (1914) は初めヨーロッパなどに産する *I. echinospora* Durieu の変種として var. *asiatica* Makino の名で植雑 **18**: 129 (1904) に発表された。その時の記載には，産地は信州野尻湖，採集者および日付は K. Yazawa 1903; T. Makino 30. VIII. 1904; K. Shibata 26. IX. 1904 となっている。1956 年に私が日本にあるシダの基準標本を調査した時には，これに該当する標本をどこの標本室でも発見することができなかった。その後東京都立大学牧野標本館 (MAK) の標本を調べた際，どうもそうらしいと思われるものが数点見つかったが，確かにそうだとは言い切れないので，先般 (1964, 1974) 本誌に発表した“牧野標本館にあるシダの基準標本”には入れないでおいた。しかし場所・採集者・日付などからみて等価基準標本 (syntypus) の片割れと考えてよさそうである（もっとも当時はタイプなどという考えがなかったので無理な話ではあるが）。

問題の標本は次に挙げるもので，すべて *I. asiatica* の名で整理されている。番号は私が整理した時の控え番号で，標本館では別に新番号が付けられているはず，また各番号の標本はいずれも数個ないし 10 数個の株をもっている。*1766*：信州野尻湖，氏名なし，8/37（明治 37 年＝1904）。*2746*：同，柴田桂太，日付なし（これには“或は中原源治の樺太？”の注あり）。*2745*, *10099*, *10100*：同（ただし後 2 者は野尻池となっている），高橋貞吉，Aug. 1904。　　（東京都文京区小日向 1-22-6）

□久米康生：**手漉和紙精髄**　ふるさとと歴史　pp. 346（内 200 ページ標本手漉和紙）講談社，東京 (1975 Sept.) ¥ 48,000。本書は 3 部から成り　熊切圭介氏の手漉和紙の現況の記録で写真集が 32 ページ，各地で撮った技術や風景がみられる。ついで岩手県の成島紙から鹿児島県の蒲生紙まで 100 点を，ページ大の標本紙をそえて集めてある。辛うじて残っている紙などを集めたもので，貴重な集積といえる。第三部は著者の記述で，「紙郷の盛衰」でその発達と転落の歴史を語り，「紙郷をめぐる」で各地の歴史と現況とを詳述した。終りにのせた全国手漉和紙製造業者名簿は，現在の業者を網羅している。過去における展開と現在における凋落をマークした点で，一つの記念すべき業績であるといってまちがいないであろう。　　（前川文夫）

□倉田　悟：**樹木民俗志**　pp. 168＋5 (1975 IX) 地球社，東京 ¥2,300。昭和45年から49年半ばまでに書かれたものを集めたもの。いつもの調子が撥剌と出ていて，多くの方言を使った語原考が随処に散見する。ハシバミは総包葉の剛毛がさわるとはしかく感ずることから，カンコノキはタンナサワフタギの方言カンコや，カナクギノキのカッコと共通して，樹皮が剝落することからカノコギならむというなど，新らしい知見が楽しい。巻末の沖縄県西表島の植物は，八重山群島として見た植物誌で，固有や北限等を扱い，初島氏の沖縄植物誌をさらに程度を高めたものでよい参考となる。　　（前川文夫）